

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度第2回史跡大森勝山遺跡整備指導委員会
開 催 年 月 日	平成29年12月20日(水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時から午後4時まで
開 催 場 所	岩木庁舎2階多目的ホール
議 長 等 の 氏 名	委員長 工藤竹久
出 席 者	委員長 工藤竹久 委員 岩瀬直樹 委員 岡田康博 委員 関根達人 委員 須藤司 オブザーバー 県教育委員会文化財保護課 斉藤主査
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	教育長 佐々木健 文化財課長補佐 村元広美 同課主幹兼埋蔵文化財係長 岩井浩介 同課主事 福原健 同課主事 東海林心 同課主事 赤石茜 同課主事 佐藤信輔 建設政策課 赤石総括主査 (株)空間文化開発機構 田口研究員
会 議 の 議 題	(1) 史跡大森勝山遺跡整備実施設計について (2) その他
会 議 結 果	別添議事録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	
会 議 内 容 ( 発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等 )	別添議事録のとおり

【会議内容要旨】

議題（１）史跡大森勝山遺跡整備実施設計について

- 工藤委員長 : 腐植土の削平はやはり必要ということか。
- 事務局 : 腐植土は今年度施工の仮設道路整備工事でも問題となった。現状で林地になっている場所については、漉き取りをしないと厳しいと考えている。
- 工藤委員長 : 設計額が変更となるのか。現場では職員が立ち会うのか。
- 事務局 : 手間は多少増えるが施工は容易となる。立会いは職員により随時行う予定。
- 工藤委員長 : 植生復旧について、今回は現状にそのままかぶせるということか。
- 事務局 : 台地上部についてはそうなる。先ほどの腐食土は斜面部や台地下部に堆積していることから、そこでは漉き取りを行い、表層直下に遺構が残る台地上部ではそのまま保護盛土を行う形とした。
- 工藤委員長 : 工事用及び管理用道路と環状列石園路との取り合いはどうなるのか。
- 事務局 : 工事用と管理用道路、それとバリアフリールートは環状列石南東端の破線部分で一体化させる。なお、本地点付近の園路は次年度の実実施設計で詳細を検討する。
- 岡田副委員長 : その場合、管理用道路は常に開放するということか。
- 事務局 : 重複する部分についてはそうなる。それ以外は、可動式の車止めなどで分離する方向で検討している。
- 工藤委員長 : バリアフリールートを見越した説明板の設置も、検討する必要があるのではないか。
- 事務局 : 通常のルートとバリアフリールートの両方に説明板を整備した場合、内容がどうしても同じものとなり、整理が必要となる。
- 工藤委員長 : 竪穴建物跡の表示について、柱表示は薄い石版となるということか。
- 事務局 : 柱痕の表示として、石版を整備することとなる。
- 関根委員 : 本遺跡の竪穴建物跡は大型であり、著名な遺構でもある。大きく深い竪穴

であり、おそらく壁周溝による土留め板が巡っていたものとなる。深さの体感はどうなるのか。

事務局 : 現状に保護盛土を行うので、体感はそれほど変わらないと考えている。

関根委員 : 土留め板との関係性からも、壁周溝の表示はしてほしい。

事務局 : 事務局としても表示したいが、施工上、ペイントによる表示等が必要となり、経年経過による早々の劣化は免れ得ない。説明板等で説明するものとしたい。

工藤委員長 : なるべく建物の雰囲気は残るようにしたい。立ち上がりは今のままだと、少なくなるのか。

事務局 : 堅穴建物外の周堤状の盛り上がりと建物の関係は、実は調査でもはっきりしていない。逆に調査時の所見のままだと、高低差は地山分しかなく、低くなる。おそらく現状の周堤は当時も機能していたと思うので、現状に近づける整備としたい。

岡田副委員長 : 整備というのは中々忠実に作るのは難しいもの。とはいえ、高低差や大きさは実感できるようにする必要がある。あとは総合的に説明するべきであり、「すべて忠実に」とはできないだろう。

関根委員 : 本遺構に深さがあることは重要であり、建物復元をしないがゆえに、錯覚させないようにする整備が必要となる。「深さがあり、土留めしていた」ことを実感できるように整備してほしい。

事務局 : 現状の深さが失われるような整備は、事務局としての本意ではない。土留めの溝の表現は難しいかもしれない。

関根委員 : 深さが大事なのであり、溝の表現にこだわるつもりはない。晩期において整備される大型堅穴建物跡はなく、本遺跡の遺構は重要な位置を占める。変な表現とならないように注意してほしい。

工藤委員長 : 堅穴建物跡は本来の深さを体感できるものとはならないということか。

事務局 : 100%、とはいかないかもしれないが近づけたい。

工藤委員長 : 柱痕の石版は径 30cm とのことだが、あまり真円だと変な感じがする。

- 事務局 : 昭和期の調査では、柱痕という正確な認識で調査されたとは言いがたく、エレベーションも漏斗状となっている。市としては、この中で深い堅穴様の部分を柱痕と整理した。よって、正確な数値とは言いがたいため、平均径30cmを基準としている。
- 工藤委員長 : 真円とならないようにできないか。注)
- 事務局 : 検討はしたい。
- 工藤委員長 : 園路や土器埋設遺構の舗装については凍害が心配だ。
- 事務局 : 豆砂利舗装・透水性舗装については、これまでの実績から問題は無いものと考えている。土系舗装については表層の締りが悪くなるほか、除草や補修のコストはかかると思う。
- 工藤委員長 : 土器埋設遺構をFRFとした場合、土器もFRPで作るのか。
- 事務局 : そうなる。
- 関根委員 : 土器部分だけ別な着色をするということか。
- 事務局 : そうなる。退色はすると思うが。
- 工藤委員長 : 壊れていい、というなら土器を埋めておいておくのはどうか。
- 事務局 : 基本設計段階でも議論したが、本来的には土器埋設遺構は、土器を完全に埋めて、上部に土饅頭的な盛土を行ったものと推定される遺構であり、土器が見えていたものではないため、土器を見えるようにする、というのも誤解を生む。よって、サイン的な位置表示とし、土器径を円環により表示し、素材も金属で整備するものとしたものとした。
- 関根委員 : 説明板での本遺構の説明はどうなるのか。単純に「土器が埋まっていた」だけでは意味がない。用途として「子どもの墓」等と記載するのか。
- 事務局 : 本遺構の調査で、機能を証明する直接的な証拠が出ているものではないが、類例などから「子どもの墓」と想定される、との説明はしたいと思っている。
- 工藤委員長 : 各遺構表示には基本的に説明板が付くことになるのか。
- 事務局 : すべての遺構表示には説明板を付す予定。

工藤委員長　：サインや説明板は屋内と屋外では、見た目がだいぶ違う。

事務局　　：施工時には、現地に仮設置するなどして、見えがかりの検討はしたい。

## 議題（２）その他

事務局より、今年度実施したドローンによる春夏秋冬の空撮と今後の整備計画について説明。

関根委員　：調査測量については、昨年度の日本考古学協会弘前大会で法政大学の小口先生がデモしていた、セスナからのレーザー測量技術が精度もよく、活用できるのではないか。樹木の葉も透過するので、手間も少ない。1回の飛行での単価設定なので、他の場所も測量できるとコストダウンにもなると思う。

事務局　　：詳細設計用なので精度にもよるが、検討したい。

県斉藤主査　：来年度は現状変更の手続きが生じることとなるが、どうするつもりか。おそらく包括的現状変更申請に当たると思われる。

事務局　　：文化庁へ相談中。なお、包括的現状変更については、史跡弘前城跡と堀越城跡でも行っているが、手続きが中々に煩雑となっている。本遺跡は史跡規模も整備規模も小さいことから、その辺りの取り扱いについても相談したい。

注) 竪穴建物跡の柱痕表示については、後日工藤委員長より「非真円にはこだわらない。真円でも良い」旨、追加意見があった。